

社団法人大村青年会議所

2009 年度 理事長所信

理事長 熊 康一郎

はじめに

社団法人大村青年会議所（以下、大村 JC）は 25 名の若き青年たちの手により昭和 34 年 10 月 5 日に設立されました。青年たちは“新日本の再建は我々青年の仕事である”という理念を掲げ、その理念の実現こそが自分自身の使命だと信じ、郷土大村の発展を夢見て結集しました。その大村 JC も今年「創立 50 周年」という節目の年を迎えます。

我々は先輩たちが築き上げてきた半世紀に亘る歴史の重みを受け止め、心から感謝し、謙虚に創始の精神を受け継いでいく責務があります。しかし、今やその責務は受け継ぐだけにとどまりません。JC 創始の精神に立ち返り、改めて我々に課せられた使命を再認識した上で、明るい豊かな社会の実現へ向けた変革の能動者として次の半世紀に向かって前進しなければならないのです。郷土を今一度見つめ直し、皆が笑顔で安心して暮らせる社会、未来の子どもたちが誇りを持てる社会を創造しようではありませんか。「人と人との絆を大切にし、地域を愛するところを育み、明るい豊かな社会の実現に一步でも近づこう」我々に課された使命にこの思いが加わったとき、そこに新たな“志命”が誕生するのです。今こそこの志命を達成するために我々は英知と勇氣と情熱をもって JC 魂を伝播しなければなりません。私たちは時代の先駆者として、新たな歴史を創造して行きましょう。

－市民と JC との共創共生－

「JC しかなかった時代」から「JC もある時代」へと変化してきた社会情勢の中で何故我々は活動を続けているのでしょうか。それは JC が必要とされているからです。我々は青年としての英知・勇氣・情熱を結集して JC 魂を地域の活力へと変えてきました。これから先も市民意識を変革し必ずや理想社会を築くことができると、私はそう信じています。但し、そのためにはまず我々一人一人が JC 運動の本来の意義・目的を十分理解しなければなりません。地域に暮らす人々の目となり耳となり、誰の為の、何の為の JC 運動なのかを見つめ直すことが必要だと思います。一人の市民として、また一人の Jaycee として、自分たちの暮らす地域は自分たちが創るという志命を胸に刻み、そして地域が抱える問題の本質を知りましょう。そこに住む皆が笑顔で安心して暮らせる社会を創造しようと考えるとき、JC は今以上に必要とされる地域に根付いた存在になるのです。未来の子どもたちが地域に愛着を持って暮らせる社会を市民と JC が一緒になって築き上げようではありませんか。それが我々 Jaycee の役割であり、そこから市民と JC との「共創共生」が始まるのです。

ー地域愛が問題解決の糸口ー

自分の愛する人が問題に直面していたら、貴方はどうしますか。自分の子どもが将来安心して暮らせない問題が目前にあったらどうしますか。愛する家族が問題に直面していたなら、貴方は必ずその解決に率先して行動をおこすでしょう。地域のリーダーである我々 Jaycee は、これを社会に置き換えて考える必要があるのです。まずは、家族を大村の地域に置き換えて考えて下さい。愛する大村の地域が問題に直面していたら、その解決に取り組もうとしませんか。地域への愛を持つことが問題解決に向かう基本的精神となりうるのです。今改めて自分自身が地域愛を持っていることに気づくことで、自らが住む地域の問題点が見えてきて、その解決に取り組む意識が養われると信じます。

地域のリーダーが創る魅力ある例会づくり

例会は我々 Jaycee が月に一度相集う、JC 活動の中で最も重要な会合の一つです。さらに、各委員会活動の進捗状況報告による JC 全体の情報を共有することが出来る貴重な場であり、また会員同士の交流を深めることのできる場でもあります。しかし、それだけではなく、最終的に何を達成することができたかということも重要なのです。まずは会員としての心得から、相手の話を聴く力、そして自分の考えを話す力を身につけましょう。そうすることで時代の変化に対応でき、集団の意見や形成に方向付けができる地域のリーダーに成長するのです。我々一人一人の力は限られたものでしかないでしょう。しかし、その会員の JC 魂（英知・勇気・情熱）が周りの会員一人一人に伝わり、そして市民へと広がっていくとき、それは無限の可能性を秘めていると思います。例会にはそれを実現することの出来る要素が十分あります。その魅力に大村 Jaycee が気づき始めたとき、例会は今まで以上に魅力のあるものへと変化し、そして会員自らが積極的に参加する例会へと変わっていくのです。

まちを愛する子どもたちを育もう

私たち JC は明るい豊かな社会を築き上げる為に活動をしております。しかしながら、私たち自身が地域を知らない部分がたくさんあると感じます。明るい豊かな社会を築き上げる為には、まず地域の実情を知ることから始まり、何も私たち大人だけが行うものではなく、同様に子どもたちも地域のことに関心を持たせることが大切であります。次の世代を担う子どもたちが、自分たちの生まれ育った地域のことを考えるスタートラインを創ることで、私たち大人以上に地域を知り誇りや愛着がさらに生まれてくると考えます。そう考えたとき、子どもたちが地域を愛する、ということが非常に重要になってくるのです。元気のある地域には、その地域を愛する人達がどれくらいいるかが大きく関わっています。私たち大人は子どもたちの未知の可能性を十分に引き出さなければなりません。感動を伴う素晴らしい体験が出来る機会を子どもたちに与えることで、次の世代を担う子どもたちが地域のことを知り、理解し大切に思ってくれる、そして誇りを持ち愛してくれる、そのような元気のある地域にしていかなければなりません。子どもは宝であり未来の担い手なの

です。子ども達の可能性という原石を磨くことにより未来の地域が輝きだします。子は親の鏡と言われるように子どもと地域の大人との在り方は重要であり、世相もまた子どもたちに影響を与えています。だからこそ地域と共に学び育て、地域を愛し持った、大村の子どもたちを育成していきましょう。地域を愛する子どもたちが多ければ多いほど、明るい豊かな社会の実現に一步でも近づくことができると信じているからです。

JC 魂の伝承

明るい豊かな社会の実現を目指す私たちには、より多くの仲間が必要であることは間違いありません。このまま会員が減少して行けば、思うような地域へ向けた事業展開も出来なくなります。新しい仲間が加わることで組織はより活性化し、JC 運動を支える源となる力があるのです。会員拡大は JC の基本的な運動であり、継続的な活動を行う上で最も重要な原動力であると考えます。また、私たち JC は地域のリーダーを創り上げることが出来る組織であり、この組織から生まれる人材がまちを変え、地域の方々との交流も生まれ、人と人との繋がりが地域の輪になり私たちの運動にも共感が得られるのです。あなたは、JC に入会して魅力を感じていませんか、そこには JC として Jaycee として JC 運動の魅力がたくさんあるからだと思います。私たちは JC に魅力を持ち青年らしく輝き、一人でも多くの仲間に JC 魂(英知・勇気・情熱)を伝えて行かねばならないのです。多くの個性が集結することで、その個性は磨かれ輝きを放ちます。明るい豊かな大村の未来を創るため、全員でアンテナを張り巡らせて、大村 Jaycee 全員で会員拡大に取り組みしましょう。私たちの基にあるものは、個々の地域に対する熱き想いと、その想いを共有できる仲間との絆なのです。

市民協働のおおむら夏越まつりに

ふるさと大村の夏に市民が参加し楽しめるまつりをとの想いで創り上げられたおおむら夏越まつりも本年で 30 年を迎える歴史となりました。大村の夏の風物詩として定着し、この先も夏越まつりが永遠と受け継がれるまつりとなり、多くの市民の皆さんが参加され、楽しんで頂きたいと思います。その一方で、まつりの提唱団体である大村青年会議所の会員も毎年入れ替わっていく中で、本来のまつりの意義やそれに対する思いが受け継がれにくくなっています。本年はさらに原点をよく理解し、末永く市民に愛されるまつりとなるために、今まで以上に熱い気持ちで真剣に取り組んでいく事が必要であると考えます。私たちは提唱団体として、夏越まつりの携わり方についての考え方や見方を違う視点から考え、より多くの市民・行政・諸団体方々に運営に参画して頂く将来像を描き、今後の方向性についてコンセンサスを図っていきましょう。さらに、市民の方々と将来像を描くことで心の連帯感が生まれ、まつりを通してふるさと大村への郷土愛が生まれると信じております。

公益法人取得を目指して

昨年12月公益法人制度改革が施行されました。私たちは過去2年間、表面的な対策ではなく、大村JC全体で今後の方向性、事業内容、事業比率の検証や法人改革に関する情報提供を継続的に行い、公益社団法人になる意義の訴えかけとコンセンサスを図ってまいりました。本年「公益社団法人」取得を目指すには今後更に私達の会計や活動に対してより一層の透明性や公益性が求められてきます。我々が地域社会で担う役割をよく理解した上で公益法人たる組織となる為に運営面の諸改革に取り組み前向きにチャレンジしていきましょう。

素晴らしき出逢いに向けて

JC活動の中には、LOMにおける活動の他に出向というもう一つのフィールドがあります。大村Jayceeとして地域で根を張った活動をしながら、国際青年会議所、日本青年会議所、地区協議会、ブロック協議会といった希望に満ちたステージに立つことによって得られるものは図り知れない可能性を持っています。そのステージの上には、未知なる可能性と新たな同志に出逢うことができ、更には訪れる先々の日本の風土を知ることが可能にし、出向して得たものは一生の財産になり、JCで出会った仲間は一生の友となり得るのです。我々は、英知と勇気と情熱を持った青年として、自主的に行動することにより個人が成長し、その経験をLOMに還元することにより大村JCの活性化に繋がり、地域で活躍する大村JCの創造の一助となるのです。今日という日、今という瞬間は二度と戻っては来ません。新たな自分探しに、自らの潜在能力を呼び覚まし、素晴らしき出逢いに向け積極果敢な大村Jayceeとして出向というフィールドへ踏み出しましょう。また、同様に各地で行なわれる魅力ある各種大会も同じ事が言えます。それぞれの大会に目的意識を持って積極的に参加しましょう。

楽しむ工夫をしよう

個性あふれる大村Jayceeがお互いの個性を尊重しあい、議論を重ねて納得できる事業を力合わせて創り上げて行くことができる、そんな個性溢れプライドを持てるLOMにするためにJCについて多めに語りましょう。そんな語らいの場があるからこそ会員個々の活力と委員会に魅力が生まれ、さらに組織が活性化していくと私はそう信じます。様々な仕掛けを取り入れ模索しながら互いが成長し、委員会運営がなされることを期待すると共にすべての会員が自信を持って大変だったけどこんなに成長した、参加したからこんなに楽しかったとJCと向き合ってほしい。物事が楽しいかつまらないかを決めるのは取り組む人と参加する人の心です。つまらないことやつらいことでも楽しむ工夫、参加する工夫をすれば前向きな気持ちになり自然とそこから得ることも多くなるのです。どんなことでも楽しもう。チャレンジ精神があればきっと自身のかけがえのない財産を得るのだと信じています。一年後には、「大変だったけど楽しかった」と是非感じてほしい。

おわりに

本年は青年会議所を多いに語りましょう。

英知をもたなければ、多くの人に伝わらない。
勇気をもたなければ、青年らしさが伝わらない。
情熱をもたなければ、同じ志を持つ人に伝わらない。

この三つの JC 魂が揃うとき、Jaycee として、今の時代を生きる青年の一人として、あなたに限りない成長をもたらすと確信します。

創立 50 周年は私たちの生涯において二度と経験できません。一度の経験だからこそ我々の人生において素晴らしいターニングポイントになるでしょう。だからこそ、明るい豊かな社会の実現に向けて一歩でもち近づけるため、今、我々が共創共生に向けて勇ましく平成のサムライとなり、Jaycee として JC にプライドをかけ JC 魂を伝播するときなのです。

〈小さな夢が重なりあって喜びわかち合う 未来を語り 汗を流す熱い仲間たち
これでいいなんてないさ 納得できるその日まで 始まったばかり
共創共生に向けて平成のサムライとなれ〉

2009 年大村 JC スローガン

今こそ JC 魂の伝播
共創共生に向けて立ちあがれ
平成の Samurai 大村 Jaycee

2009年度基本方針

- ◎市民とJCとの未来づくりの創造。
- ◎地域のリーダーとしての会員の資質向上。
- ◎地域を愛する子どもたちを育む青少年育成の取り組み。
- ◎全会員による拡大の意義の再確認、拡大意識の向上及び意義ある交流の実施。
- ◎まつりの意義の再確認「市民協働のおおむら夏越まつり」に向けた取り組み。
- ◎公益法人改革を見据えた諸改革を実施し、公益法人たる組織に移行する準備に向けた取り組み

2009年度事業計画

- ◎会員が積極的に参加できる企画例会の充実と魅力ある例会の創造。
- ◎市民意識変革運動に向けたより効果的で正確な広報活動。
- ◎出向者支援及び他 LOM 渉外窓口。
- ◎地域に誇りや愛着を持てる青少年事業の開催。
- ◎わんぱく相撲実行委員会との共催による「第17回わんぱく相撲大村場所」の開催。
- ◎全員で取り組む会員拡大。
- ◎新しい仲間に必要な事項を理解する為のセミナーの実施およびサポート。
- ◎平成21年おおむら夏越まつりへの参画と携わり方の検討。
- ◎感謝あふれる記念式典、記念事業の開催。